

「KYOTO地球環境の殿堂」第1回殿堂入り者



グロ・ハルレム・ブルントラント

(1939年生)ノルウェー王国

国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」の委員長を務め、1987年に発行された最終報告書“*Our Common Future*”において、「持続可能な開発」の概念を提唱し、今日における地球環境保全の国際的な政策形成に貢献した。

元「環境と開発に関する世界委員会」（ブルントラント委員会）委員長、元ノルウェー首相



真鍋 淑郎

(1931年生)アメリカ合衆国

大気と海洋大循環を一体化した地球気候の総合モデルを開発し、現在、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）で行われている地球温暖化シミュレーションのプロトタイプとして活用されているなど、地球温暖化予測の先駆者として貢献した。

プリンストン大学大気海洋研究プログラム上級研究員、日本学士院客員



ワンガリ・マータイ

(1940年生)ケニア共和国

2005年2月、京都で開催された京都議定書発効記念行事に出席するため来日した際、日本語の「もったいない」という言葉の意味に感銘を受け、世界各地で環境のキーワードとして「MOTTAINAI」の言葉を普及させるなど、環境と共生する思想の普及や環境保全活動の実践に貢献した。2004年ノーベル平和賞受賞。

ケニア共和国 元環境・天然資源・野生動物省副大臣